



まなび
P

地域と学校をつなぐ

こころ
P

「おはようございます。」「こんにちは。」地域の子供たちとあいさつをしていますか。

自分たちの地域に住む子供たちに、どのような成長を期待していますか。

ICT、AI、多様性、予測困難な社会、SDGs・・・。今の子供たちは、私たち大人が子供だった時代とは明らかに違う時代を生きていきます。しかし、今は各所における教育力の低下、人間関係の希薄化といわれるようになり、「学校運営協議会の設置・活用」や「外部人材/地域ボランティアの活用」といった学校の中と学校の外をつなぐ教育力が求められるようになりました。そのため、子供たちの豊かな学びのためには、地域と家庭と学校がともに手を携え、取り組んでいく必要があります。

では、その教育力を高めるために、地域と学校はどうしていけばよいのでしょうか。

自治体、地域、学校それぞれが単独で取り組んでいるものもありますが、全国的に推進されている取組の一つが学校運営協議会を主軸とした学校支援ボランティアによる授業支援です。

小川の地域には、木工作業が得意な方、料理が得意な方、絵を描くのが好きな方、合唱経験がある方、昔遊びに慣れ親しんでいた方など、知識や技能、思いをおもちの方がいらっっしゃいます。

今年度、本校には、情報教育、環境教育、英会話、着衣泳、書写等、多くの授業に様々な方が参加してくださっています。

学校ホームページのブログでもご紹介させていただきましたが、先日の家庭科でのミシン支援では15人の方が6年生の授業に参加してくださいました。この支援により、児童2人にボランティアの方1人が付くという素晴らしい環境が整いました。温かい言葉かけ、分かりやすい支援、手本となる実技、そして何より素敵な笑顔のおかげで、仕上がりが美しい、完成までが早い、満足感と達成感が高まるというプラスの効果につながりました。



現在、学校運営協議会委員さんのお知り合いの方、さらにそのお知り合いの方のお知り合いの方というように、支援ボランティアの輪が広がり始めています。ご参加は、「つて」でなくても結構です。お一人でのご参加でも結構です。（何年も書写の支援をしてくださっている方も単独で支援を続けてくださっています。）「何かできることがあるかな。」でも結構です。

参加されたボランティアのみなさんからは、「子供たちから元気をもらいました。」「また参加させてください。」「私なんかでも子供たちの役に立てるんだなって思いました。」という感想もいただきました。

「また来てね。」「また来るよ。」

このやり取りが、さらに広がっていくことを願っています。

ボランティアに関することは、
学校（教頭）まで気軽にお電話ください。
ご連絡お待ちしております。



こころ
P

読書の秋を楽しもう

まなび
P

少しずつ秋を感じるようになってきました。道路側の校舎の窓には、「読書の秋 しゅみの秋 スポーツの秋 いろいろ実る秋にしよう」というメッセージが掲げられています。

さて、7月に実施させていただいた学校評価アンケートの結果（学校ホームページに掲載）を見ると、保護者アンケート結果のうち、いちばん肯定的な意見が少なかったのは読書に関するものでした。県は、4年生以上の児童において年間50冊以上の本を読むことを推奨しています。それを受け、本校も朝読書の日を週4日間設けております。学校でも家庭でも、大人も子供も一緒に読書の秋を楽しみませんか。

